CASBEE®-建築(新築) ▎評価結果▎

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2014年版　|使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2014(v.3.01)

1-1 建物概要

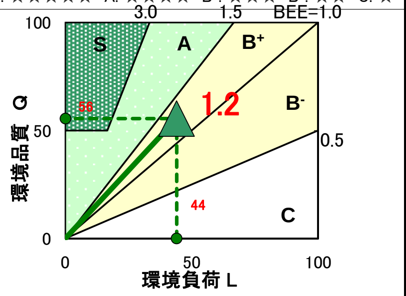
建物名称	津久井合同庁舎	階数	地上4F
建設地	相模原市緑区中野937-2	構造	RC造
用途地域	第二種住居地域、準防火地域	平均居住人員	85 人
地域区分	5地域	年間使用時間	3,000 時間/年
建物用途	事務所,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年1月　予定	評価の実施日	2017年2月21日
敷地面積	4,204 ㎡	作成者	株式会社小林建築事務所
建築面積	1,081 ㎡	確認日	2017年2月21日
延床面積	2,997 ㎡	確認者	株式会社小林建築事務所

1-2 外観

2-1 建築物の環境効率（BEEランク&チャート）

BEE =1.2 ★★★

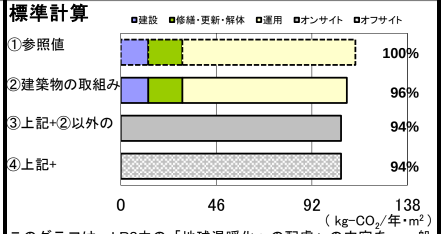
S: ★★★★★　A: ★★★★　B+: ★★★　B-: ★★　C: ★



2-2 ライフサイクルCO_2（温暖化影響チャート）

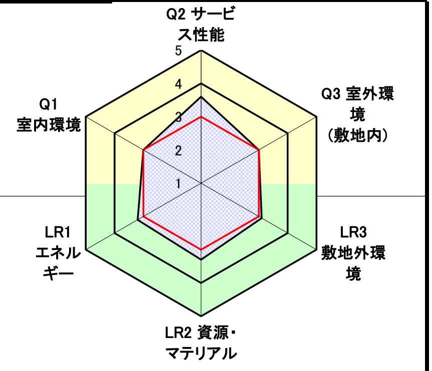
☆☆☆

30%: ☆☆☆☆☆　60%: ☆☆☆☆　80%: ☆☆☆　100%: ☆☆　100%超: ☆



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

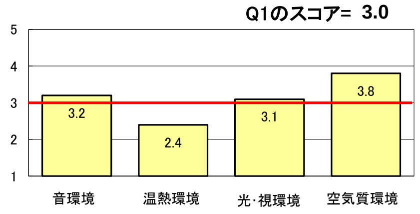
2-3 大項目の評価（レーダーチャート）



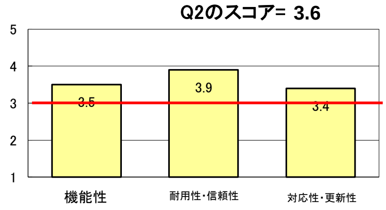
2-4 中項目の評価（バーチャート）

Q 環境品質　*Q のスコア= 3.2*

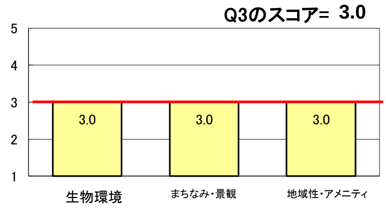
Q1 室内環境　Q1のスコア= 3.0



Q2 サービス性能　Q2のスコア= 3.6

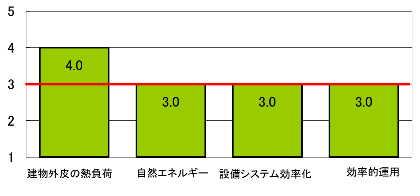


Q3 室外環境（敷地内）　Q3のスコア= 3.0

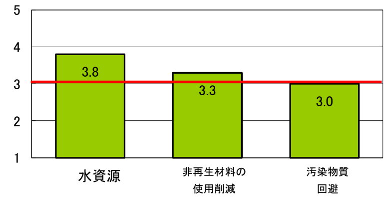


LR 環境負荷低減性　*LR のスコア= 3.2*

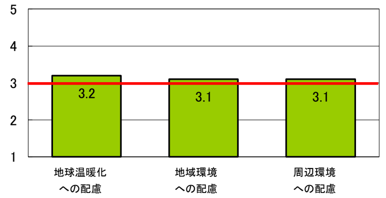
LR1 エネルギー　LR1のスコア= 3.2



LR2 資源・マテリアル　LR2のスコア= 3.3



LR3 敷地外環境　LR3のスコア=3.1



3 設計上の配慮事項

総合

・本館棟北側部分を平屋、また低層棟である車庫・倉庫棟を北側に配置して、近隣に対する日影の影響を考慮した建物配置計画としている。
・相模原市、及び旧津久井町の自然をキーワードとし、周辺街並みに調和した落ち着いた色彩の外装計画としている。

その他

『公共施設の木造・木質化等に関する指針』に則り、法的に使用できる範囲で積極的な県産木材(津久井産）を活用する内装計画としている。

Q1 室内環境

事務室に面した開口部にはバルコニー及び庇を設け、光・視環境に配慮している。
また、全館禁煙とするなど、空気質環境にも十分配慮している。

Q2 サービス性能

休憩室等のリフレッシュスペースと自動販売機コーナーを設けるなど心理性、快適性に配慮している。
また、建築基準法に定められた1.5倍の耐震性を有し、耐用性・信頼性に配慮している。

Q3 室外環境（敷地内）

空地率を大きくし、また、中高木を植栽することにより敷地内温熱環境の向上に努めている。

LR1 エネルギー

太陽光発電設備を採用し、自然エネルギーを活用した設備計画としている。

LR2 資源・マテリアル

雨水利用設備を導入し水資源の保護に配慮している。
また、設備計画にあわせて適切にパイプスペース、配線室を設置し、ＯＡフロアの採用など非再生資源の使用量削減に配慮している。

LR3 敷地外環境

ゴミ量の推計や、有価物の回収を計画し、廃棄物処理負荷抑制に配慮している。
また、広告物照明を行わないなど周辺環境へ配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency（建築環境総合性能評価システム）
■Q: Quality（建築物の環境品質）、L: Load（建築物の環境負荷）、LR: Load Reduction（建築物の環境負荷低減性）、BEE: Built Environment Efficiency（建築物の環境効率）
■「ライフサイクルCO_2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO_2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される